

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 **新** 博物館ニューノーマル対応実施事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県博物館 総務部管理調整 電話番号：0575-28-3111 (内 250)

E-mail：c21804@pref.gifu.jp

1 事業費 8,158 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	8,158	0	0	0	0	0	0	0	8,158
決定額	3,900	0	0	0	0	0	0	0	3,900

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

コロナと共生する時代を迎え、運営上の様々な制約や、社会の行動様式が変化していく中、博物館も、コロナ後のニューノーマル (新常态) に合わせ変化対応していく必要がある。

当館は昭和51年の開館以来、収蔵数13万点におよぶ資料や標本などを活用し、常設展示、特別展等の展示、講演会、催し物の開催等により、県民の教育、学術、文化の発展に寄与してきたが、その立地から、公共交通機関でのアクセスが不便であることがネックとなっている。このため平成30年度から、「来館を待つ」という展示姿勢ではなく、「全県域において収蔵資料に触れる機会を積極的に創出すること」をコンセプトとして、県内文化施設や民間商業施設等で展示、ワークショップを行い、博物館機能の全県展開を図っている。

今般のコロナ禍では、当館も臨時休館、展示、講演会等の中止、規模縮小等の対応を強いられ、「県民の教育、学術及び文化の発展に寄与 (博物館条例)」すべき博物館の機能を一部停止せざるを得なかった。今後、このような状況下においても、博物館の機能を維持し、県民の「知的好奇心を探求する場」であり続けるために、必要な機器の整備を行う。

(2) 事業内容

ア HPサーバーの強化

感染の再拡大により、外出の自粛が求められる状況にあっても博物館の機能を提供できるよう、Web空間を、博物館本体、全県展開（博物館外での出張展示）と並ぶ新たな展示空間「バーチャル博物館」ととらえ、コンテンツを増強する。これに必要となるHPサーバー容量の増強を行う。

（現サーバーは容量が30Gと脆弱（30件程度のアクセス集中でサーバー停止）なため、動画配信にも対応できるよう240Gに増強する。）

イ webコンテンツ製作委託

外出自粛下や遠距離、体調、時間等の制約により来館が難しい個人や教育団体等が、HP上で博物館を体験できるよう、館内のストリートビューコンテンツ（Googleのストリートビューのイメージ）の製作を業務委託する。

当館の収蔵品、展示を紹介する動画コンテンツ（YouTube、HPに掲載）の製作を業務委託する。

ウ ニューノーマルに対応した「博物館のかたち」に必要な機器の整備

当館は小中学校から年間100件以上の団体を迎え、県のふるさと教育施策上重要な役割を果たしている。利用にあたっては、館内の自由見学だけでなく、展示解説や体験等を取り入れ、高い付加価値を提供してきた。今後も継続して、展示解説や体験等を行うために、映像、音響機器を整備することで、感染防止対策を図り、多くの児童生徒に引き続き、付加価値の高い情報提供を行う。

ZOOM（web会議アプリ）を利用して参加者と当館をつなぎ、コロナ禍や距離的制約に縛られない双方向のオンライン見学会を実施する。児童生徒が学校から参加できる「博物館授業」、普段公開しない収蔵品、収蔵庫や、web上で当館学芸員に質問、解説を聞ける館内ツアーなどを配信し、教育普及、バリアフリーの面で博物館機能の拡充を図るため、必要な機材を調達する。また、けんぱくホールの音響、映像機器についても、Web講演会に対応できるよう機器の更新とシステム構築を業務委託する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県単独事業として実施

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
消耗品費	550	ビデオカメラ、GoPro等 Zoom用機器
委託費	4,505	ホームページデータサーバー移行費、Webコンテンツ制作委託等
使用料及び 賃借料	641	サーバシステム使用料、Zoom使用料
備品購入費	2,462	Zoom機器等
合計	8,158	

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

今般のコロナ禍における博物館機能の一部停止などの状況下においても、博物館の機能を維持し、県民の「知的好奇心を探究する場」であり続けるため、HPのサーバーの強化、Webコンテンツの制作委託、ニューノーマルに対応した「博物館のかたち」に必要な機器の整備を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
博物館入館者数	249,375 (H30)			158,642 (R1)	200,000 (R6)	79.32%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

--

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

--

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<p>コロナと共生する時代を迎え、運営上の様々な制約や、社会の行動様式が変化していく中、当館は、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与していく必要がある。そのために、当館はコロナ後のニューノーマル（新常态）に合わせ変化・対応することで、県民の「知的好奇心を探求する場」であり続けることができると考えられるため、この事業の必要性は高い。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 県内博物館施設との連携展示やWeb講演会を実施するにあたり、他館・他施設との連携や連絡調整が必要になる。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 博物館は「教育文化施設」とすると同時に、地域の文化観光資源でもある。中濃地区の市町村・観光団体と連携し、隣県ひいては全国にふるさと岐阜の魅力を発信する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	

